

中国浙江省舟山郡島のなぞなぞ

馬場 英子

舟山は、日本の九州のやや南、上海の沖合い東海(東シナ海)に浮かぶ気候温暖な群島です。今は連島大橋で、対岸の寧波とつながり、上海から舟山の中心(舟山島)定海区までは長距離バスでわずか3時間余の距離となりました。乗用車がどんどん島に入ってくるようになった現在、舟山の自然環境も人々の生活も急速に変わりつつありますが、島という地理的条件のため、これまでは、本土側に較べて伝統的な風俗習慣が、わりによく保存されていました。

本稿では、大陸中国にあつては、海に囲まれたいさか珍しい地域、一方、島国日本に暮す私たちには、却って身近なものも多い舟山の漁民の暮らしをなぞなぞに探ってみたいと思います。

一、まず「空に…」で始まる謎を紹介します。

1、空に針が一本ありました 落っちたら、どこにも見つからない

答えは「雨」。雨を針に喩える謎は、中国各地に広く分布しています。

2、空にお豆腐一丁ありました 落っちて ぐっちゃぐちゃ

答えは「雪」。雪を空から落ちた豆腐、とするのは、温暖多湿で、厳冬でも5度前後の気温で、雪はめったに降らず、降ってもすぐに融けてぬかるみになる舟山ならではの謎といえるでしょう。ちなみに2010年12月には、舟山市で実に十数年ぶりに積雪9センチの降雪があり、生れて初めて雪を見た子どもたちがはしゃぎまわる様子がニュースになりました。

参考までに、西北の大草原に暮すウイグル民族の雪を白馬に喩える謎を紹介します。

「空から無数の白馬が降ってきて、大地は真っ白に覆われる

白馬は草を食べないが 草は白馬を食って元気に育つ」

3、空から大きな干物 降って来て ピーピーピーピー逃げ惑う

答えは「ひよこを襲う鷹」。「大きな干物(鯊)」と訳したのは、中国語で「大黄魚」と呼ばれる大型のイシモチを開きにして干したものです。イシモチは日本では高級魚というイメージはありませんが、中国では、海の人参(朝鮮ニンジン)と呼ばれるほど栄養価も高いそうで、また体の色が黄色いので、皇帝の色をした魚として、尊ばれます。(逆に日本で珍重される鯛の仲間は、「大口魚」と呼ばれて雑魚扱いです。)紹興では、年越し料理に豚肉と一緒に煮て煮凍りにした「鯊凍肉」が欠かせないと言われるように、浙江一帯で広く知られる舟山特産の高級食材です(ただし、まる一日水につけて塩抜きしても食べられないほど塩がきつい)。イシモチは昔は東海(東シナ海)でたくさん獲れたそうですが、乱獲の結果、今は大きなものはほとんど獲れなくなりました。イシモチを干すのは、以前の舟山では日常の風景

だったので、肉厚の干物は確かに猛禽が羽を広げた様子に似ているようです。少し前まで、どこの村でも放し飼いのニワトリやアヒルが勝手に歩き回っていました。そのヒヨコたちを狙って、近くの山の頂からタカがさっと舞い降りる情景を捉えた謎です。魚の干物に譬えるところが、舟山独特ですが、「タカがヒヨコを襲う」というなぞなぞ自体は、中国各地にあります。一例を挙げると

「天の秀才(科挙受験生) 威張ってやってきて 一軒一軒門口で挨拶すると 老いも若きも一家全員飛び出してくる」(『中国謎語大全』43頁)

二、「おばあちゃんちの裏庭に」

「おばあちゃんちの裏庭に(婆婆后门槛)」は、舟山のなぞなぞの歌い出しです。「婆婆」と言うのは、中国の共通語では、お姑さんのことですが、舟山方言では、老齡の女性、子どもにとっては母方のおばあちゃんと同義のようです。「摇摇摇 摇到外婆家」(お舟をこいで おばあちゃんの家)という、江南地方一帯で最も広く知られたわらべ歌のうたい出しにも出てくるように、母方の祖母の家は幼子にとっては、もっとも可愛がってもらえる心楽しむ場所なのでしょう。



舟山の一般的な家の造りでは、門を入ると、まず前庭があります。建物の手前中央が、客を迎えたり祭祀などを行なう「堂前」と呼ばれる部屋で、その奥が台所です。勝手口の向こうには、「後門檻」すなわち裏庭があります。裏庭は、ちょっとした家庭菜園、道具類の物置などとして使われ、子どものかっこうの遊び場でもありました。中には、勝手口を開けるとそのまま裏道や川や山道につながっていたり、裏庭と呼べるほどの空間のない家もありますが、ともかく台所の外の空間が「後門檻」です。



4、おばあちゃんちの裏庭に 黒い水牛がいて

二頭の水牛 ごつつんこ

答えは「窓」。昔の窓は厚くて重い観音開きの板戸でした。両側からバタンと閉める様子を謎にしています。水牛は、中国南部では以前は農耕に欠かせない家畜でしたが、浙江省などでは今やほとんど見かけなくなりました。

5、おばあちゃんちの裏庭に 青ネギぼうぼう

朝には抜かれてすっからかん

答えは「箸立て」。浙江、上海などの田舎の家では、台所の壁に、箸立てが掛けてあります。竹の箸が無造作に何本も挿してある中から、食事の時には適当に取って使います。舟山

では、ネギは日本の関西の青ネギ、ワケギの類が普通で、市場でも、関東で使われるような太いネギはほとんど見かけません。これは、青ネギの生え方を思い浮かべないと、ぴったりしない謎です。箸立ての謎は、以前、上海近郊の松江でも聞きましたが、

「望みやれば小さな墳墓 朝な夕なに茅(ツバナ)抜く」

と、箸立てを中国の伝統的な土饅頭の墓に見たて、箸を抜き取る動作を茅(ツバナ)に譬えています。ツバナの若芽はかすかに甘く、舟山でもツバナを抜いて味わうのは、子どもの春の楽しみだった、と聞きました。日本でも古い野遊びとして親しまれていたことは、『万葉集』からもうかがえます。

○茅花抜く 浅茅が原の つほすみれ 今盛りなり 我が恋ふらくは (巻8)

○わけがため わが手もすまに 春の野に 抜ける茅花そ 召して肥えませ(巻8)

6、おばあちゃんちの裏庭に ベッドが一つ

中で眠ってる百人の小僧

答えは「マッチ」。ベッドが「眠床」と言う方言になっていることと、歌い出しを除けば、全国共通のよく知られた謎です。ただしマッチをほとんど使わないのは、今や中国も同様で、日本留学に備えてマッチの擦り方を練習してきた、という留学生もいます。



7、おばあちゃんちの裏庭に 黒めんどりがいて

お客さんが来ると、こっここと鳴く

答えは「湯沸かし(やかん、ないしは土瓶)」。浙江、上海あたりでは竈の横側に湯沸し専用の置場が設けられていて、竈の熾きで湯を沸かしておけるようになっています。いつも竈に置かれているので、煤で真っ黒なことと、お湯を注ぐ様子を鶏が首を振る様子に比しています。なお寒さが厳しい北京など北方では、湯沸かしはブリキの筒状のものを竈の専用の口に差込んで使いましたから、鶏に喩えるこの謎は、北の人には答えられないでしょう。

8、おばあちゃんちの裏庭に 菜っ葉が一つ

雨の朝には花が咲く

「傘」。これは歌い出しの一句を除けば全国共通の謎です。

9、おばあちゃんちの裏庭に 旗が一枚

毎朝使う

「タオル」。これも全国共通の謎です。

10、おばあちゃんちの裏庭に 竹の腰掛一つ

お猿さんが跳び乗って 人形芝居の始まり始まり

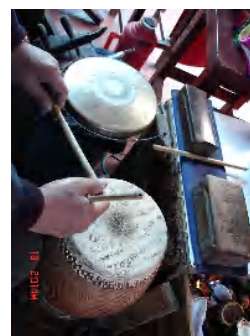
答えは「(ばねで挟んで捕る仕掛けの)ネズミ捕り」です。ネズミ捕りも以前の生活では必需品で、さまざまな謎があります。捕まったネズミの暴れ様を人形芝居に譬えているのは、人形芝居が盛んな舟山ならではのでしょう。舟山人形芝居については25、を参照。



11、おばあちゃんちの裏庭に 甕一つ

周りに、疔だらけ

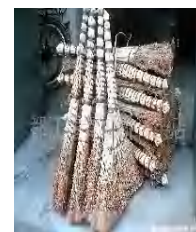
「太鼓」。皮を留める鋏をできものに譬えています。太鼓は人形芝居の伴奏にも欠かせません。太鼓の合奏、舟山大鼓も民間芸能としてよく知られています。



12、おばあちゃんちの裏庭に ほうきが一本

数えても数えても数えきれない

答えは「髪」。ほうき(芦棘杆)は、高粱殻を束ねた長さ50センチほどの箒、土間や竈周りを掃くのに、広く使われていました。



13、おばあちゃんちの裏庭に 血のかたまり 坊やが見つくて 大騒ぎ。

答えは「野苺」。この謎を教えてくれた留学生の毛さんは、春の初めはツバナの若芽を抜いて甘い汁を舐め、初夏には草イチゴをみつけて食べるのが子どもの頃の遊びの思い出だと言っていました。



14、おばあちゃんちの裏庭に 一本の木 ぐるりにずらり 分銅がぶら下がる。



答えは「ミカンの木」です。たわわに実ったミカンに分銅に譬えるこの謎もミカンのできる南では広く知られる謎です。

「庭に一本の木 ぐるりにずらり分銅が懸り 分銅の中には小さな櫛 櫛の中には真珠が入ってる」(『中国謎語大全』199頁)と後ろに続く言い方もあります。海洋性で気候温暖な舟山では、山でも庭でも、さまざまな柑橘類を見かけますが、特に中国語で「柚子」と呼ばれる文旦を植えている家が多いようです。

15、おばあちゃんちの裏庭に 一本の木

一段切って また一段 この謎解いたら〇〇食らえ！

「大便をする」が答えです。表面的にはごく普通のことを言っているように聞える、引っかける謎です。(訳に一工夫がいる謎ですが、うまく訳せません)

以上、「おばあちゃんちの」という歌い出しで始まるなぞなぞは、いずれも台所やその周りで日常見かける、子どもに身近な謎ばかりです。

三 漁民の暮らしにまつわるなぞなぞ

16、頭には竹のトンがり帽子をかぶり、身には木桶の上着をまとい

お腹をぐーぐー鳴らして、お尻は火で焼かれる

今ではほとんど見かけることも無くなりましたが「漁網を煮る大鍋」が答えです。この謎は1995年に舟山の漁村を初めて訪ねた時、漁民の徐銀花(76)さんから聞きました。

当時、船修理工場(?)の広場では女性たちが集まり、小さな椅子に座って、漁網の修繕をしているのを見かけました。今の網はビニール製なので、こうして綻びを繕うだけですが、昔は苧麻や木綿だったので、防腐のために漁から帰ると



「紅栲(クリカシ? 樹皮にタンニンを含む)」の樹皮と一緒にこの大鍋で煮たそうです。丈夫になって長持ちするというので、蚊帳やシャツも煮たそうです。また、動物、牛や豚の血で煮る方法もあり、この場合は、寧波の屠殺場に行って血を仕入れて来て、やはりこの大鍋で煮ました。こうすると網が傷みにくく丈夫になるだけでなく、一本一本の織り糸が堅くなって網がほぐれやすく扱いやすくなったそうです。

17、頭には角一本 お尻には角二本

でか腹に 一本のわら 刺してぐらせ、くり返す

答えは「(網を編むのに使う)杼」です。

当時、漁村の小路では、近所のおじいさん、おばあさんがこれも数人集まって、おしゃべりしながらでんでに網を編んでいました。竹製で、機織りに使うものと構造は同じですが、編み棒のように手に持って、一本で編んでいきます。



18、木の龍のベッドで眠り 乞食服を纏い

おいしい魚スープを飲み 竈に上って糞をする

「船上での漁師の暮らし」です。木の龍とは、舟のことです。狭い船倉に寝泊まりし、タールで真っ黒に汚れた恰好を乞食に喩えています。人形芝居でも、黒い服装が貧乏人、乞食を

表す記号です。

19、小箱が一つ 小鬼八匹 柱は二本

答えは「カニ」。

20、ちびの龍 鬚は棕櫚みたいに硬く

生きてる時は血が無くて 死んだら全身真っ赤っか

答えは「エビ」。



21、頭の上には蓮の花 お尻は蓮の葉でおおう

22、見ると紅絹のようで 触るとすべすべ

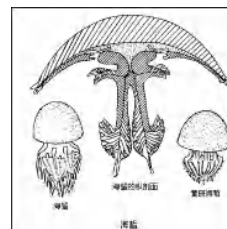
本当にすまいが 頭のまん中にまらがある

21、22とも答えは「クラゲ(海蜇)」です。「海蜇」は、中華料理でなじみの、即ち塩漬けにして食用にする「クラゲ」です。主にビゼンクラゲをさし、大きいものでは直径1メートル近くに達します。舟山沖、特に嵯泗群島一帯はビゼンクラゲの主要生息地でした。専用のわら縄の網で捕るクラゲ漁が以前は盛んでしたが、最近



生息数が急減しているそうです。ここに挙げた謎は、いずれもクラゲが浮遊している様子を見知っている漁師たちの謎で、特に22は色話(葦故事)ならぬ「色謎?」です。巨大なクラゲと格闘する海の男の姿が浮かぶようです。「海蜇」には、もちろん「クラゲ骨なし」をいうこんな謎もあります。

南海から来たふにゃふにゃ姉さん 骨も無い血も無い(『中国謎語大全』139頁)



23、海の水で育って 真水で塩抜きされ

玄関から押し込まれてギンギン鳴く

答えは「クラゲを食べる」です。玄関(房門)は、「口」、クチャクチャ噛む様子を述べています。

四 その他

以下に紹介するのは、特に舟山の暮しだけにかかわるものではありませんが、いずれも江南地方に広く知られたなぞなぞです。

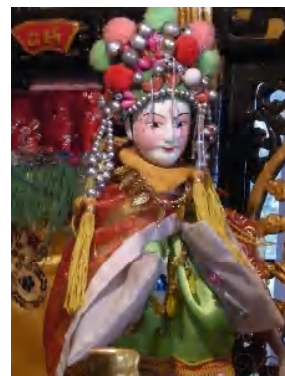
小さなお宮 お宮の神さま、毎年交代

答えは「竈の神さまを祀る神棚・お宮」です。以前は竈の煙突部分に必ず神棚が設けら

れていて、竈神の画像が貼ってありました。竈神は年に一度、天に昇って一家の行状を報告すると信じられており、十二月二十三日に古い画像を燃やして天に送り返したあと、新年には神迎えをして、新しい画像を貼りました。舟山では、今も一家の無事を守る神として、竈神の祀りを絶やさない家も多く、年末には竈神の画像も売り出されます。新築の台所の中には、以前、竈があった場所に作りつけのタイルの竈神像がはめ込まれている家もあります。この謎が忘れ去られる日も遠くないかもしれません。

深い山奥の一本の木切れ お役人になったり奥様になったり

幾度も 赤い絹のお召しは着たけれど 靴は全然 履きつぶしたことがない
答えは「人形芝居」です。舟山の人形芝居はすべて指人形なので、足はありません。舟山の人形芝居は、願掛けや結婚式のお祝い、寺社のお祭りなどに、神さまに奉納されるもので、今も演じられています。演目はほとんどが歴史物ですが、平安や「発財(金持ちになること)」を寿いで、敵をやっつける激しい戦闘場面や科挙に合格して役人になったり、結婚する場面が繰り返し演じられます。



黄さん家の人 童(桶)さん家に行き 一晚泊り 二晩泊り 三晩泊ったら 尻尾と二本の角が生えた

答えは「豆モヤシ(黄豆芽)」。黄は大豆(黄豆)、童は桶にかけてあります。

27、纏足の若奥さん でっかい腹して 頭にゃ泥んこ載っけてる

答えは「酒甕」です。中華料理店の前などに紹興酒の甕が置かれているのをご覧になったことがあるのではないのでしょうか。紹興酒は甕に詰められた後、空気が入り込まないように粘土を貼りつけて密封します。紹興酒は年代物ほど珍重されます。女の子が生まれると記念に紹興酒を仕込んで、娘の結婚式の祝い酒にするところもあります。



28、ころころころ

竈に行ったらバサリとやられた

答えは「卵を割る」。うまく訳出できませんが、原文は首切りの動作ひと言で収めている口調のいい謎です。

29、九斤姉さんが訊きました

底はあるけど蓋無しの桶 蓋はあるけど底無しの桶
子孫桶 上も下も同じの桶 なあに？

組謎です。「九斤姉さん」は、組謎をかけるときの決り言葉です。魯迅の「から騒ぎ(風波)」にも出てきますが、生まれた時の体重を呼び名にする習慣がありました。九斤は今は4,5キロ、古い度量衡では5キロ以上になりますから、そんな体重の赤ん坊はほとんどいないわけで、笑いを誘う歌い出しなっています。答えはそれぞれ「(洗濯) 盥、鍋ぶた、産湯を使う盥、(ご飯を炊く) 蒸籠」です。舟山では川辺や井戸端で洗濯をしているのを今も見かけます。持ち運びに便利のように片側に持ち手がついた木製の盥は必需品です。竈で料理していた時は竈の口に合わせて尺八(一尺八寸)尺四(一尺四寸)の大鍋(中華鍋)が竈にかけてありました。その鍋に蓋するのですから、木製鍋蓋も巨大です。ご飯は今では電気釜が普及していますが、伝統的な炊き方は米のゆで汁を捨てて、蒸籠で蒸し上げます。



30、門口の二匹の白ぶち犬。五人のおじさんに出くわすや

さっと捕まり殴り倒された

答えは「手鼻をかむ」。今はほとんど見かけませんが、以前は手鼻をかむのは日常の光景でした。鼻水を犬に瞥え、手を五人のおじと言って、素早く手鼻をきる動作を描写しています。中国南部に広く伝わる謎です。

31、背びれはすっかり鱗で覆われ 腹は骨だらけ

大口開けて 生きている人を呑みこむ

まるでブリューゲルの「大魚は小魚を呑む」のような謎ですが、答えは「家」です。骨の原文は「筋」、柱や梁を指しています。家を魚に譬えるこの謎も全国版です。

32、せむしせむし 歯がいっぱい

くまなく 山登り

答えは「櫛」です。歌い出しは禁止用語かと思いますが、以前は栄養の偏りで、背の曲がった人は実際珍しくなく、謎やわらべ歌の常套句でした。山の原文は「養山」で、舟山では以前、山はすべて植生保護のため入山禁止令が出されていたため、山のことを「養山」と呼んだそうです。

以上、舟山の人々、主に漁民の暮らしの中に伝わる謎をいくつか紹介しました。いずれも方言で語られるもので、音を伴わないと、味わいはなかなか充分にお伝えできないのが残念です。物はもちろん、動作までも謎にしたててしまう、言葉の楽しさの一端を味わっていただけたいでしょうか。

ここに挙げた謎は、1995年に当時76歳だった舟山島漁民の徐銀花さん、そして昨年学芸大学のシンポジウムの前に、新潟大学留学生で岱山島漁民出身の毛久燕さん(28歳)、毛さんを通じてご両親や知り合いの方々に教えていただいたものです。他地域の謎との比較には、『中国謎語大全』(王做編 上海文芸出版社 1983)を参照しました。

謎語原文

1、天勒(上)一枚针 督落(掉下)哧处寻---雨

2、天勒一块豆腐 督落淖糊(踩烂)---雪

[无数白马从天降, 盖得大地白茫茫 白马从来不吃草, 草儿吃它长得旺(『大全』59页)]

3、天勒一斗蚩 督落 weiwei 响---老鹰刁鸡

[天上一个秀才 摇摇摆摆走下来 家家门前做个揖 全家老小赶出来(『大全』59页)]

4、婆婆后门槛 有一只乌水牛 两只牵拢(关闭) 碰一头---窗

5、婆婆后门槛 有一株葱 第二天亮拔个空---筷笼

[望上去一个小坟墩 早早夜夜拔茅针(松江)]

6、婆婆后门槛 有一张眠床 里头困勒一百个小和尚---火柴

7、婆婆后门槛 有一只乌鸡娘 人客来了“啾啾”响---茶壶

8、婆婆后门槛 有株菜 朝朝落雨朝朝开---雨伞

9、婆婆后门槛 有一面旗 每日天亮去用其---毛巾

10、婆婆后门槛 有一张小竹凳 活孙跳上会做小戏文---老鼠夹

11、婆婆后门槛 有一只缸 团团圈圈生疔疮---大鼓

12、婆婆后门槛 有一把芦棘杆 数数数勿遍---头发

13、婆婆后门槛 有一颗(块)血 小弯(小男孩)看见强强叫(惊叫)---割笋(野草莓)

14、婆婆后门槛 一株树 团团圈圈挂秤锤---橘子树

15、婆婆后门槛 有一棵树 割一截 断一截 猜着拨依吃--- za 厠(大便)

16、头戴竹角帽 身穿树桶袍 肚皮呱呱响 屁股火烧拢---煮网的锅

17、头勒一个角 屁股两个角 肚皮大 烂根稻草 穿上又穿下---渔网梭

18、晒晒木龙床 穿穿乞丐服 吃吃鲜鱼鲜汤 大便搭灶头里爬上---渔民生活

19、一只小柜 八个小鬼 二个柱子---螃蟹

20、小小一条龙 牙须(胡须)硬如棕 生前没有血 死后满身红---虾

21、头勒(上)开荷花 屁眼荷叶遮---海蜇

22、相相红似绸 捋捋滑如油 讲讲勿相信 乱子会生头底心---海蜇

[南海来了个软大姐 没有骨头没有血 『大全』139页]

- 23、海水养 淡水涨(泡)关进房门咯咯响 吃海蜇
- 24、小小一座庙 庙里菩萨年年调--- 灶神龛
- 25、深山冷岬一根柴 做官做府做奶奶 穿过多少红绸缎 没有穿破半只鞋--- 小戏文(木偶戏)
- 26、黄家屋里人 到童(桶)家屋里去 一夜宿两夜宿 三夜宿过一根尾巴两只角--- 黄豆芽
- 27、小脚老绒大肚皮 头勒挂督污乃泥(泥团)--- 酒甕
- 28、滴滑滴滑 走勒灶头磕煞--- 打鸡蛋
- 29、九斤姑娘问的话 有底旣盖桶 有盖无底桶 子孙桶 两头桶(洞)--- 洗衣服的盆 锅盖 生小孩时用的盆 饭蒸笼
- 30、门口两只白花狗碰着五阿伯(手)掣来就掣煞--- 擤鼻涕
- 31、背肘顺(全部)是鳞 肚皮顺是筋 开大口 吞活人--- 房子
- 32、驼背驼 牙齿多 整座养山会爬过 --- 梳子